

豊平公園緑のセンターの建替について説明会が開催されました。

札幌市では現在、豊平公園緑のセンターの建替を検討しています。11月30日にその内容を説明する会を開催し、たくさんのご意見をいただきました。当日の様子をご紹介します。

発行年月日：平成 25 年 12 月 16 日
 発 行 者：札幌市環境局みどりの推進部
 みどりの管理課
 住 所：〒060-0051
 札幌市中央区南 1 条東 1 丁目
 大通バスセンタービル 1 号館 6 階
 問合わせ先：電話：011-211-2536
 FAX：011-211-2523

1. 建替検討の経緯

豊平公園緑のセンターは建設から30年以上経過しており、随時補修を行ってききましたが、

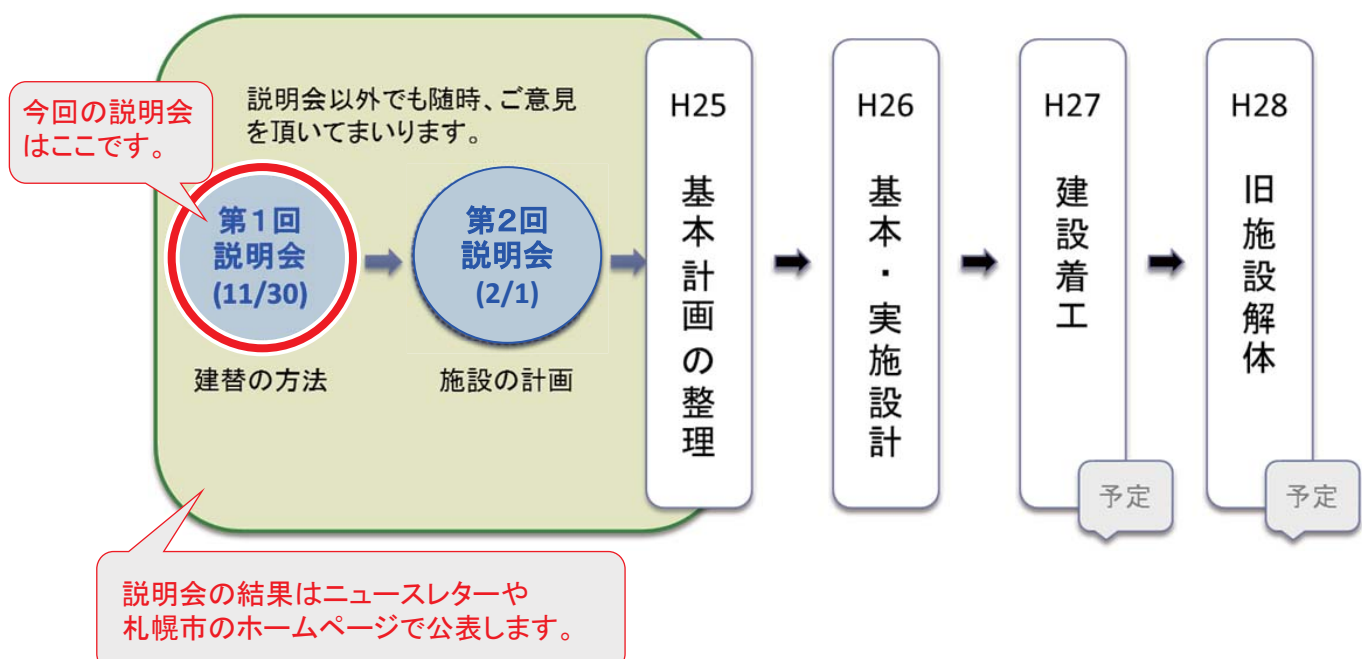
- 施設の激しい老朽化
- 緑のセンターに期待される役割の変化
- バリアフリーへの対応

など、抜本的な対応が早急に求められています。このため札幌市では、**センター施設の建替**を検討しています。説明会で建替検討の経過をお伝えするほか、説明会以外でもご意見を随時いただき、施設検討に反映させて参ります。



2. 建替検討のすすめ方

本年度に**2回の説明会**を実施し、建築計画を取りまとめる予定です。



3. 建替の必要性

センター施設が深刻な老朽化をしており、機能面で課題があるほか、新たな社会ニーズを受け止めていく必要があります。



施設の深刻な老朽化	<ul style="list-style-type: none">● 築30余年を経過(鉄骨造)● 平成24年の耐震診断で「倒壊の恐れ」● 主体構造の劣化のため抜本的な対応が必要
機能規模の課題に対応	<ul style="list-style-type: none">● 「狭さ」「使い勝手」への対応● バリアフリー化、快適性の確保● 環境負荷の低減 など
新たな社会ニーズの受け止め	<ul style="list-style-type: none">● 都市緑化植物園の機能拡充● 多様な活動主体を支援する機能の新設● 新たな緑化技術の普及機能の新設 など



建替の必要性

説明会にご参加の皆さんからご理解をいただきました。

4. 建替の考え方について

建替にあたっては現在の課題を解消するとともに、情報提供や技術紹介を強化し、市民活動の拠点づくり・バリアフリー化・公園環境に配慮した計画とします。

建替の基本的な考え方

施設整備の考え方①

現在の利用状況、利用や管理上の課題、期待される機能などを踏まえ、これからの緑のセンターにふさわしい施設構成とします。

施設整備の考え方②

「都市緑化植物園」として新たな社会ニーズを受け止め、都市緑化に係わる市民活動の拠点づくりを図るほか、情報提供や技術紹介など専門性を強化します。

施設整備の考え方③

使いやすさやバリアフリー(段差の解消など)、公園環境に配慮し、環境負荷の少ない施設を検討します。



ご意見: 新たに検討している**ボランティアルーム**はどのような人たちが活用するのか?

市回答: 現在、園内で活動してるハーブの会などのボランティアの方たちのほか、**全市的に活動している緑化ボランティアの皆さんの活動拠点**として検討していきます。

ご意見: **高齢者**などへの対応は?

市回答: 高齢者を含め、全般的に「**人に優しい**」施設づくりを進めていきます。

ご意見: 太陽光など**自然エネルギー**を活用しては?

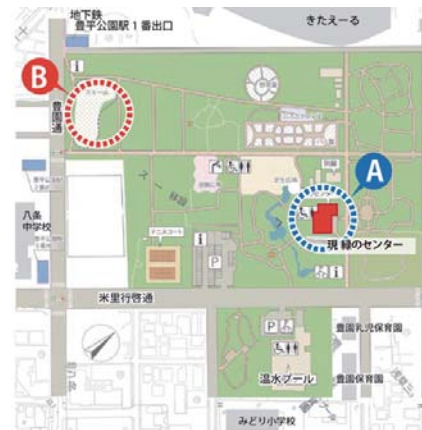
市回答: 省エネを含め、自然エネルギーの活用を**積極的に検討**します。

5. 建替場所の検討

建替場所の検討を行い、地下鉄豊平公園駅出口の近くに移設建替を提案しました。

建替場所選定の考え方

建替場所は下記に留意しながら、現地建替（A）と移転建替（B）を検討しました。



1

自然環境や既存施設への影響を軽減

2

センター機能を継続しながら建設

3

事業費の経済性を考慮

建替場所の検討-案の比較

比較検討の結果、地下鉄駅に近いスキー山の場所を移転先としました。

A 現地案

センターを解体し現地で建替



- 樹木への影響がやや低い
- ◎今ある基盤やアクセスを継承
- × 仮設の代替施設、用地が必要
- × 一時移転の経費、労力増
- △別棟間のケヤキ木立に支障の恐れ
- △地下鉄からのアクセス性は低い

B 南側案

豊平公園駅出口近くのスキー山で建替



南側案
を選択

- 樹木への影響が低い（スキー山は移設）
- ◎地下鉄駅からのアクセス性が向上
- ◎センターを運営しながら建設が可能
- ◎外に開かれた施設形成が可能
- △スキー山の移設が必要
- △圃場等の移設や連携が必要

センター跡地の再生

現在のセンター跡地は、スキー山を含む園地整備を行い再生します。



ご意見：冬は滑るので、地下鉄駅に近くなるのはありがたい。

新しいセンターを、地下鉄の出口に近い南側に建設します

既存の遊具広場や芝生広場と合わせて、近隣に親しまれるゾーンとします

現在のセンター跡地は、スキー山を含む、憩いの広場に再生します

ご意見：移設するスキー山の土は、越冬昆虫もいるので園内で活用すべきでは？
市回答：新しくつくるスキー山などで活用を検討します。

6. 施設構成と規模

機能の拡充、新たな機能導入の方向は下記の通りです。

施設の主要機能	現行規模(㎡)	新規規模(㎡)	備 考
エントランス・ロビー機能	68㎡	100㎡	多機能ロビーテラスとして拡充
温室機能	184㎡	190㎡	同規模程度
緑の相談・図書機能	48㎡	50㎡	同規模程度
展示室機能	91㎡	120㎡	手狭なため拡充
講義室機能(別館、収納含む)	250㎡	250㎡	最大120人規模で、小割可能に
事務・管理・倉庫機能	122㎡	200㎡	教室や展示のための収納を拡充
ボランティアルーム機能		30㎡	新設。市民活動の拠点づくり。
合 計 (売店、トイレ、廊下、機械室を除く)	763㎡	940㎡	約1.2倍に拡充

ご意見: 自動販売機や売店の設置、軽食サービスがあると便利だが？

市回答: 他施設ではコーヒーサービスがある例もあり、利用者サービス面の検討をすすめます。

ご意見: 町内会や夜間の利用ができるように検討して欲しい。

市回答: 札幌市の条例や運営体制を踏まえ、使い勝手を考慮した運用方法を検討します。

ご意見: ボランティアルームの規模が狭くはないか？

市回答: 規模については活用方法を踏まえて検討し、次回具体的にお示しします。

7. その他の留意点

そのほか、建築計画の検討にあたっては下記の事項に配慮して進めます。

その他の検討要素

- ロビーは休憩・展示、市民活動の場として活用できるよう工夫
- 緑のカーテン、壁面や屋上緑化を建築に取り込む
- 育苗圃場は建物と一体的に整備を検討
- バリアフリー、環境負荷の低減に留意
- 外に開かれた、立ち寄りやすい施設を考慮 等々

ご意見: 機能重視だけで、緑と無縁な無機質な建物にして欲しくない。

市回答: 自然との調和を踏まえ、次回説明会でご提案します。

ご意見: 現施設の2階休憩スペースから小鳥が見えるのが気に入っている。新たな施設ではどうなるか？

市回答: 新しい施設から見える公園風景には配慮した計画を進めます。

ご意見: 災害時の避難場所として、その機能を考慮して検討すべきでは？

市回答: 全市的な防災計画に基づいて検討します。

ご参加をいただいた皆様、
ご意見ありがとうございました！

緑のセンター入口に「ご意見箱」を設置していますので、
ご意見をお寄せください！
ファックスの受付もしております(表紙右上の発行元をご覧ください)。

次回は **2月1日(土) 午前10時から**
緑のセンター別館講義室で具体的な建築計画案の説明を行います。

*12/27(金)まで
にお寄せください。